

授業科目名・形態	障がい者（児）の福祉 講義	必修・選択の別	選択	単位数	2
科目担当者氏名	中里 操・古川博文	実務経験の有無	有	開講期	2年後期

【授業の主題】

「障害」について制度面を含めた理解を深めるとともに、広汎性発達障害などの近年になって社会的な関心が高まっている「障害」についても理解を深める。さらに、就労支援、ボランティアによる支援など、「障害」のある人々を含め全ての人にとって暮らしやすい社会づくりがどうあるべきかを考え、将来、看護や福祉の専門職としての実践に活用できる知識や理念を修得する場とする。

【到達目標】

- 1) 社会的な関心が高まっている「障害」についての制度を理解すること。
- 2) 「障害」のある人々を含め全ての人にとって暮らしやすい社会づくりについて理解すること。

【授業計画・内容】

- 第1回 障害とは（古川）
- 第2回 知的障害・身体障害について（古川）
- 第3回 精神障害について①（古川）
- 第4回 精神障害について②（古川）
- 第5回 発達障害について①（古川）
- 第6回 発達障害について②（古川）
- 第7回 障害とバリアフリーについて（古川）
- 第8回 障がい者（児）の福祉の歴史を考えるー収容主義からの脱却と地域生活支援（中里）
- 第9回 障がい者に対する雇用問題と福祉的支援制度・仕組み（中里）
- 第10回 障がい者（児）の生活環境と福祉生活条件（中里）
- 第11回 障害児療育についてー保健・医療・福祉・教育の連携（中里）
- 第12回 自立・就労と家族への支援（中里）
- 第13回 生活サポート・ボランティア活動と地域ケアシステム（中里）
- 第14回 障がい者（児）の高齢化問題を考える（当事者と家族の高齢化）（中里）
- 第15回 まとめ、今後の課題と展望（中里・古川）

【授業実施方法】

講義(グループ討議等を随時行う予定である)

【授業準備】

講義内容を踏まえ復習を中心に、講義中に指摘する障害に関わる問題について、新聞や参考書を用いて確認すること。

【主な関連する科目】 「障害者福祉論」「精神障害者福祉制度論」「社会福祉概論」

【教科書等】

特に指定しない。

【参考文献】

随時、講義の中で紹介する。

【成績評価方法】

授業態度等 30%、提出レポート 70%で総合的に評価する。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

私は福祉施設でソーシャルワーカー（社会福祉士7年・精神保健福祉士6年）として、利用者、その家族、支援者等への相談業務を経験している。授業を通して社会福祉学の基本知識だけでなく、実務経験から得たソーシャルワーカーとしての知識・技術・価値を統合する能力についても高めていきたいと考えている。

【学生へのメッセージ】

本講義では、各教員の現場での体験などをもとに、障がい者（児）の福祉に関する今日的なテーマを中心に取り上げる予定である。受講生は、社会の中で生起する障がい者（児）を巡る問題に関心を持ち続けながら、主体的な学びの場として受講してもらいたい。